

第3回 下田市立中学校再編検討会議 会議録

日 時 平成 29 年 2 月 16 日 (木) 午後 6 時 30 分から午後 8 時

場 所 下田市立中央公民館 2 階 大会議室

出席者 会長及び副会長、委員 24 人 事務局 6 人 計 30 人

会長	佐々木 文夫	下田市教育長
副会長	森本 幸平	下田市校長会会長兼下田市立下田小学校校長
委員	竹内 信子	下田市立稲梓小学校校長
委員	山田 浩	下田市立稲生沢小学校校長
委員	山梨 隆史	下田市立白浜小学校校長
委員(代理)	高橋 淳	下田市立浜崎小学校教頭
委員	渡邊 篤之	下田市立大賀茂小学校校長
委員(欠席)	進士 真	下田市立朝日小学校校長
委員(代理)	伊藤 剛	下田市立稲梓中学校教頭
委員	鈴木 徹弥	下田市立稲生沢中学校校長
委員	猪ノ原 克己	下田市立下田東中学校校長
委員	渡邊 久志	下田市立下田中学校校長
委員	土屋 英典	下田市立稲梓小学校 P T A 会長
委員	今井 弘興	下田市立稲生沢小学校 P T A 会長
委員(欠席)	飯田 雅之	下田市立白浜小学校 P T A 会長
委員	金指 好則	下田市立浜崎小学校 P T A 会長
委員	田中 美和	下田市立下田小学校 P T A 会長
委員	若森 千枝	下田市立大賀茂小学校 P T A 会長
委員(欠席)	鈴木 勉	下田市立朝日小学校 P T A 会長
委員	後藤 則一	下田市立稲梓中学校 P T A 会長
委員	植松 直也	下田市立稲生沢中学校 P T A 会長
委員	土屋 考史	下田市立下田東中学校 P T A 会長
委員(欠席)	若林 僚	下田市立下田中学校 P T A 会長
委員	渡邊 金富	下田市区長連絡協議会下田地区会長 (中央区長)
委員	渡邊 洋之	下田市区長連絡協議会稲生沢地区会長 (東本郷区長)
委員	山田 徳次	下田市区長連絡協議会稲梓地区会長 (箕作区長)
委員	外岡 勝博	下田市区長連絡協議会朝日地区会長 (大賀茂区長)
委員(欠席)	増田 信隆	下田市区長連絡協議会浜崎地区会長 (柿崎区長)
委員	鈴木 康	下田市区長連絡協議会白浜地区会長 (板戸区長)
事務局長	峯岸 勉	下田市教育委員会学校教育課課長
事務局	山梨 弘樹	下田市教育委員会学校教育課参事
事務局	吉田 康敏	下田市教育委員会学校教育課学校教育係長
事務局	土屋 大祐	下田市教育委員会学校教育課指導主事
事務局	土屋 真一郎	下田市教育委員会学校教育課技師
事務局	原 隆史	下田市教育委員会学校教育課主事

1 開 会

<事務局長>

皆様、こんばんは。ただ今から第3回下田市立中学校再編検討会議を開会します。私は下田市教育委員会学校教育課長の峯岸と申します。どうぞよろしくお願いいたします。それでは、次第に従いまして、進行させていただきます。まず初めに会長であります佐々木教育長より挨拶を申し上げます。

2 会長挨拶

<会 長>

皆様、こんばんは。大変お忙しい中、第3回中学校再編検討会議にご出席いただきましてありがとうございます。昨年12月26日の第2回検討会議におきましては、皆様から貴重なご意見を頂きました。皆様から頂きましたご意見と、これまでの経過を踏まえ総合的に判断し、学校教育課としての方向性を1月の定例教育委員会で示させていただきました。既に皆様も報道等により、ご存知かとは思われますが、こちらの真意が上手く伝わっていない部分もございましたので、本日お示しさせていただく報告書で確認をさせていただきます。また、本日のご意見の中で報告書に反映できる部分につきましては、今後対応をさせていただきたいと考えております。本日も忌憚のないご意見をいただきますようよろしくお願いいたします。

<事務局長>

ありがとうございました。続きまして、次第を進める前に、本日会議に出席していただきます皆様方につきましては、事前配布しております名簿により紹介と代えさせていただきます。

それでは次に進めさせていただきますが、検討会議設置要綱により会長が議長となりますので、これからの会議の進行については、会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

<会 長>

それでは、次第を進める前に、事務局から配布資料について、説明を求めます。

<事 務 局>

— 配布資料説明 —

3 議 事

(1) 下田市立中学校再編手法及び新中学校候補地等に関する報告書(案)概要

<会 長>

それでは、次第3 議事に進めさせていただきます。議事の(1)下田市立中学校再編手法及び新中学校候補地等に関する報告書(案)概要について 事務局からの説明を求めます。

<事 務 局>

— 報告書(案)概要について、説明 —

<会 長>

ただ今の説明に関しましてご意見などはありませんか。

<委員(区長)>

今回の報告書(案)作成について、とてもわかりやすくまとめてあり、大変なご苦勞があったと思われませんが、事前配付していただきまして、私なりに感じたことを述べさせていただきます。総合教育会議におきましては、6人で構成されておりまして、その中で中学校再編について4校を1校にするのが望ましいという方向性を示されました。このことについて、私は賛成をしております。

今回の報告書(案)を見させていただきますと、通学費に対する補助を、「最大限保護者の声を聞いて対応するのが望ましい」という文言を入れても良かったのではないかなと感じました。或いは「通学バス運行についても地域住民、保護者その他関係者のご意見を尊重しながら今後検討していくことが望ましい」というような記述があった方が良いと感じました。そういった中で5点ほど質問をさせていただきたいと思います。まず1点目、97ページに「下田市立学校等再編整備審議会」の中に「等」が含まれていますが、これは何を意味していますか。2点目、32ページの通学補助想定についての記載で他市町の制度を参考に設定した「市が指定する就学校又は通学場所に変更が生じた地域」とありますが、2ページを見ますと市の財政が厳しいという表記があります。アンケートの意見などでたくさん挙げられていますが、教育委員会として、保護者の声として通学費は無償化を希望している、こういう形で市長或いは財政当局と交渉をしていただきたいと思います。最初から財政難ということでは中学校再編は絶対に上手くいきません。3点目、56ページの質問5の部分ですが、「過度の負担にならないように検討」と記載されており、この質問文だと保護者の声を聞く前から何か遮ってしまっている印象を与えてしまうと感じます。4点目、57ページの保護者意見欄のところで、「説明会では仮で4万円とのことだったが、高いと感じたため、3万円/年の設定とするような対応を求める」と記載されていますが、その4万円の数字的根拠を示していただきたいです。最後5点目、中学校再編に係る通学手法に関する決定については、今後どのような手順を踏んで決められるか教えていただきたい。29年9月までには政策決定される予定だと思われませんが、それ以前にこの通学補助に関する問題を決定した上で政策決定がされると思われるのですが、このことについてご教示いただきたいです。以上、よろしくお願いします。

<事務局長>

1点目の97ページの「等」の意味についてですが、これは幼稚園及び保育所のことを表しております。認定こども園を作った際に審議会を開催し、諮問答申を行ったことからこのような「等」という表記をさせていただいております。2点目の32ページの通学補助想定の部分で無償を前提にとのご意見ですが、現在中学校に対しましては、6km以上ということで通学補助を出しております。しかし、過去の学校統合の関係で例外の地区も存在しており、中学校ですと白浜地区、朝日地区などでは6km以上という制限を緩和しております。それよりも委員がおっしゃっていることといたしましては、無償化を全面に示していくべきであるということだと思われませんが、教育委員会としましても、通学補助についてはなるべく保護者の意に沿うような形で今後、協議調整をさせていただきます。3点目の56ページの記載内容につきましては、アンケートの出し方として、もっと強く表記した方が良いというご意見だと理解しておりますが、この表記で既に実施しておりますのでご了承していただきたいと思います。4点目の57ページの4万円という負担という部分ですが、これは、下田東中での説明会の際に具体的な金額を例示させていただき、説明をさせていただいたものです。32ページに現在の補助額を記載しておりますが、下田東中は50人に対し、約200万円を補助しており、現在中学校の通学補助は半額、保護者負担も同額で、1人当たりになりますと約4万円を支出していただいているということになります。更に言いますと、再編後、稲生沢中もしくは下田中になった場合の金額として、大凡年間約8万円になるというものも示させていただき、仮に現行補助制度のままだと更に費用がかかってしまうという説明もさせていただきました。その説明から保護者の方からこのようなご意見をいただいたというものだと理解しております。最後、5点目の今後どのようなスケジュールで通学補助についての詳細が決められていくのかという部分でございますが、これは今後、下田市立学校統合準備委員会の中で、その規約等のなかに通学に関することというものが含まれており、この委員会の中で通学についての検討をさせていただき、決

定させていただくこととなります。以前、稲梓中と稲生沢中との統合を進めた際にも統合準備委員会を開いており、中間答申という形で通学についての詳細が決定されたと記憶しております。この統合準備委員会の中で具体的なことを決定していくこととなります。質問はされておきませんが、これまでの答申内容の経過につきましては、まず平成 19 年 12 月に稲梓中と稲生沢中を統合するという答申、次の平成 27 年 3 月には、稲梓中と稲生沢中を統合し、下田東中が単学級になった場合には下田中との統合を推進し、更には将来的に下田市に中学校は一つということ視野に入れて中学校再編を考えていくという答申をいただきました。この 2 つの答申については、いずれも、まず、稲梓中と稲生沢中を統合するという内容となっておりますが、委員の皆様も既にご承知のとおり、総合教育会議の協議により、現在、4 つの中学校を 1 校化するという方向性で動いております。現時点において、平成 27 年 3 月に出された答申内容とずれがあることから、教育委員会としましては、97 ページに赤枠で示しております再編整備審議会を設置させていただき、再度諮問し、1 校化が望ましいという答申をいただきたいと考えております。来年度当初につきましては、このような形で丁寧な順を追って、進めさせていただくことをご承知おきください。

<委員(区長)>

この中学校再編については、福井市長の教育行政に対する姿勢が問われていると思います。正に政治姿勢が問われています。この通学費については、保護者の多くの声を反映していただき、何とか無償化にしてもらいたい。この件で市長は試されているといっても過言ではありません。「教育ファースト」という形でぜひ進めていただきたい。前回会議の中でもお話をさせていただきましたが、稲生沢公民館での市長と語る会において市長に対し、通学についての話をさせていただきました。その際、市長は全額補助をすると回答されたと、他の皆さんは違うという認識もございしますが、そう感じております。全額補助となると年間 4,200 万円くらいかかりますが、この中学校再編は早くても平成 33 年度からとされており、まだ 4 年間の期間があります。この間に市と市民が一緒になって経費を削減していくことが大切で、経常経費としてかかる通学費用を捻出できるのではないかと考えています。例えば、補助金の精査や西伊豆町などを参考としたふるさと納税の拡充を行うこと。中高年の医療費がかなりかかっているの、それらを抑制する健康づくり事業も行う必要があると思います。また、ごみの減量化運動、浜松市などでは各家庭でごみの水抜き指導を徹底的に行い、減量化に繋がり維持管理経費も安くなっています。熱海市などでは雑誌類などもごみ袋で分けしており、市と市民が一体となって事業を実施しています。こういったことを下田市においても実施することにより、財政難ばかりを理由にすることはしないで、経費節減をする事業展開をぜひともしていただきたいと思います。そういった中から捻出された経費を、本当に必要な通学費として使っていただきたい。万が一、本当に万が一、無償化が困難であるとなった場合は、不公平感のないように保護者の負担については、同一金額での負担で対応をしていただきたいです。

<事務局長>

ありがとうございます。これも前回会議の際にも確認をさせていただきましたが、委員が市長と語る会で、ただ今発言していただいた補助金精査や健康づくり事業等によって医療費を抑制させ、経費を捻出し、それを通学費に使うべきであるというご意見ですが、私自身もその場におりました。その際、市長は現在ご負担をいただいている以上の負担はしないよう今後検討するという回答をさせていただいております。

<委員(区長)>

高齢者のお達者度というものがある、下田市でもそのナンバー 1 を目指して事業展開をするべきで、そうすることにより医療費もかなりの額が軽減されます。財政難ばかりを理由にするのでは

なく、何か一つの目標を持って取り組むべきだと思います。

<委員(校長)>

ただ今の委員のご意見に賛成します。通学費負担については、非常に大切だと感じています。前回、稲梓中と稲生沢中との統合の際に、先ほど事務局で説明された統合準備委員会で校歌など様々なことをじっくりと長い期間かけて決定された後に、統合がひっくり返ったこともあります。通学費の部分で市と教育委員会との協議が煮詰まっていなかったからだと自分では理解しております。今、総論は賛成という流れがあり、各論について協議をしていく段階に入っていくわけです。各論に入りますとやはりお金がかかる部分については、非常にシビアになってきます。そういったことを踏まえたとこの通学費負担については、ある程度確定した方向性を示す必要があると思います。今は総合教育会議ということで市長と教育委員会が協議、調整する場があるということですが、前回、統合がひっくり返っていますので、通学費負担の部分についてはぜひとも明確なものを示していただきたい。

<会 長>

ありがとうございます。通学費関係については、アンケートなどの結果を見ても、皆様のご意見もただ今の委員のご発言のように進めてほしいということだと我々も理解しております。

<事務局長>

通学補助の関係ですが、36 ページを見ていただきたいのですが、バス利用のみの場合、全体で約4,200万円という補助額が出ております。32 ページには27年度決算数値ですが、約440万円という現在の補助額が出ており、半額補助ですので2倍の約880万円が総額となります。現在、約880万円が1校化することにより約4,200万円と5倍近くになってしまうということになります。そういう状況で半額補助にするとこれはどう見ても保護者の負担が増えてしまいます。ただ今、委員の皆様から貴重なご意見をいただきましたが、こういった皆様のご意見をもとに今後、更なる検討をさせていただきたいと考えております。

<委員(区長)>

検討会議の中で、通学費無償化について、非常に強い意見が出たということをぜひとも市長に伝えていただきたいです。

<会 長>

確認をさせていただきますが、委員の皆様も通学費無償化については、強い要望であるという理解でよろしいでしょうか。

<全 委 員>

異議なし。

<会 長>

ありがとうございます。通学費に対する強い要望については、こちらとしても理解させていただきました。皆様のご意見をもとに今後、更なる検討をさせていただきたいと思います。

通学費以外の方向性について、2ページをお開きください。まず校舎位置についてですが、下田中学校という方向性でよろしいでしょうか。

<全 委 員>

異議なし。

<会 長>

ありがとうございます。続いて、建設手法についてですが、新築が望ましいが、市の財政状況などを考慮してというような形で纏めさせていただいておりますが、この部分について、何かご意見

はございますか。

<事務局長>

先ほど、事業費についての説明を92ページでさせていただきましたが、下田中学校の新築で約26億円、増改築でも約17億円というかなり大きな金額になり、その差額については約10億円という想定をしています。昨年12月議会で学校施設整備基金という基金条例を提案したのですが、その際に議会では、新築に対する異論と言いますか、今あるものを活用した方が良いのではないかと、議案については承認をいただき、1億5,000万円という金額を基金に積みさせていただきました。この建設手法について、検討会議の委員の皆さんのご意見をぜひとも伺いをしたいと思っております。やはりどちらが良いかと言いますとそれは新築が良いということは理解しているのですが、その部分についてのご意見をお聞かせいただきたいです。

<委員(区長)>

耐震的な部分ではどうなんでしょうか。

<事務局長>

下田中学校は昭和59年に建設されておりまして、建築基準法で言いますと新建築基準法になり、耐震ランクで言いますとIbというランクで、耐震基準はクリアをしております。

<委員(区長)>

11月の視察をさせていただいた際、コンクリートなどにクラックがありましたが、建設されて約何年くらいになるのですか。

<会 長>

約30年くらいになり、かなり老朽化してきていることは事実だと思います。

<委員(PTA)>

確かに通学費を補助していただければありがたいのですが、お金がないから新築が無理で大規模改修ということになると、通学補助というのは、どちらかというところの側面があると思います。そうであるならば、もっと子どもに目を向け、子どもにより良い環境を作ってあげたいという気持ちがあります。通わせる子どもは言ってみれば、中古の校舎1か所に集めて、通わせるとなると何か腑に落ちない部分はあります。可能であれば、子どもたちだけのためにお金を支出してもらいたいという気持ちがあります。お金がないということで、新築は無理であるという部分は理解していますが、子どもにもっと目を向けていただきたいと思っています。

<委員(区長)>

私もただ今の委員の意見と同じですが、アンケートについては保護者目線のものになっており、小学生は無理かもしれませんが、中学生に対してアンケートをとっても良いのではないかと感じています。

<委員(校長)>

今、親の方に目線が向いているという意見がありましたが、教育上、やはり家庭が安定しなければ駄目なんです。ちょうど今、受験シーズンですが、どういった理由で志望校を選んでいるか分かりますか。松崎高校や稲取高校へ通学するには、通学費がかかるから通わすことができない。だから、うちの学校の子どもは南伊豆分校か下田高校の中から選びなさいと子どもに言う保護者がいるという現実があります。そういったことを踏まえますと、親に対する負担というものは子どもの教育環境に対して大きく影響しています。そこが初めて安定して、やっと次のことを考えることができます。まずはそこをしっかりとやっていただきたい。それだけ通学費というものは重要だと認識しています。

<委員 (PTA) >

何か通学補助をする代わりに新築でなく、改修をするというスタンスに見えたので、先ほどのような意見を発言させていただきました。

<委員 (区長) >

学校が遠距離になると通学するのが大変となり、不登校となる生徒が増えるのではないかと感じています。また、いじめなども心配ですので、そういった部分のケアをしっかりと対応をしていただきたいです。

<事務局長>

まず学校再編をなぜ進めるのかという部分につきましては、これは子どもたちの学習環境を良くすること、その想いで教育委員会としては学校再編を進めております。よく言われるのですが、幼保再編で認定こども園に、また学校給食では4つ調理場があったものを1つの給食センター方式にしましたが、見る人によっては行革とって、集約化することにより無駄な経費を削減できるという考えを持つ方もおられますが、我々はそういった視点で学校再編を進めておりません。稲梓中学校では全校50人程度で、地元の教育委員さんなどは、全く同じ子どもが小学校1年生から中学校3年生までの9年間勉強していると確かに少人数で良い部分はあるけれども、やはり子ども同士で序列が決まってしまう、競争力がつかない。中学校で終わりではなく、卒業してからが人生だということを考えるとたくさん子どもたちと色々な交流ができる場所を、これは中学生ではできないから大人が作っていかなければならない。上手く説明できませんが、そういった根本的な部分で、強い思いの中で再編を進めております。ただし、再編を進めるとなるとどうしても費用的な部分の検討は避けて通れないものですので、そういうものも含めた中で、何が最善なのかというものを考えております。決して、子どものことを考えていないというわけではなく、子どもを最優先に考えているということを改めて伝えさせていただきます。

<委員 (PTA) >

今、改築の話が出ていましたが、現在通学されている下田中生徒については、改築している間は仮校舎となるのですか。どういった方法を考えているのか教えていただきたいです。

<事務局>

その部分につきましては、今後基本設計等により決まってくる部分になるのですが、今回示させていただいた大規模改修の事業費は、現在の下田中学校の壁とかを全て露出させて、改修していくというイメージで試算をしています。そういった中には、仮設校舎設置の費用も想定しています。しかし、今後、基本計画や基本設計へ進んでいく中で、最新の改修工事手法により、例えば校舎を半分ずつ使用しながら改修を進めるという手法などの考え方もあり、仮設校舎を設置しなくても対応できる可能性もあります。そうなれば、仮設校舎の設置費用などは不要となり、事業費自体も安くなると思われれます。しかしながら現時点においては、仮設校舎の費用を想定した中で事業費を算出しており、ある一定の期間は、全学年、教職員の方は仮設校舎を使っていただくことを想定しています。

<委員 (PTA) >

そういった仮設校舎などの部分で生徒に負担が及ぶようであれば、やはり別の場所に新築が望ましいのではないかと感じています。

<委員 (校長) >

大変申し訳ないのですが、今回提供していただいた事業費については、教育委員会が算出した事業費になります。新築か改修かを検討するにあたり、専門家がしっかりと検討した結果に基づいて、

それらを見て我々が意見を言うことができる場所というのを今後、設けていただけることは可能ですか。

<事務局長>

97 ページのスケジュールを見てください。29 年度上半期で政策決定を行うとさせていただく予定ですが、この時点で検討会議で意見を伺わせていただいている点については、ある程度の方向性を示させていただきたいと教育委員会としては考えております。専門家に検討していただくということは、基本計画や基本設計を行うということであり、それらを委託するのにも費用が発生し、恐らく 9 月補正にて予算を計上することになるだろうと現時点で想定しています。確かにそれを待つて、決定する方法もあると思いますが、そうしますと決定が更に先延ばしになってまいりますので、こちらとしてはただ今、委員が発言された場所を設けるということは想定していません。

<会 長>

なかなか明確な回答が出来なくて申し訳ないのですが、検討会議の皆さんに諮るということは考えておりません。皆さんからのご意見をもとに報告書を作成し、それを定例教育委員会、あるいは総合教育会議などで協議調整をしながら進めていくということになります。

<委員(校長)>

大変申し訳ないのですが、この事業費につきましては正直疑問を持っております。なぜならば、こども園の時など造成費などが相当余計にかかり、かなりの誤差があったと思われます。そういったことから、ここで簡単に新築か改築かという判断を行うことは難しいと思います。

<委員(校長)>

仮に新築となった場合、現在各小学校にも修繕費など予算化されておりますが、そういった部分が削られる可能性はありますか。小学校校舎についてもかなり老朽化してきており、そういった部分の対応が新築になることによって、削られるとなると非常に厳しいのではないかと、小学生についても同じ子どもですので、そういった部分も考慮していただきたいと思います。そういった部分も関係なく、新築で対応できるということであれば、小学校を視点とした立場からでも新築が望ましいと考えます。

<事務局長>

大変申し訳ないのですが、全く関係ないとは言えず、何かしらの影響は出てくると思います。限られた予算の中で事業を執行しなければならないので、予算を多くかければ、やはりその分、他の部分で回らなくなるところは出てくると思われます。学校施設整備基金を作ったのですが、議会の際に議員の方から言われたことは、今ある学校で、雨漏りであったり、放送設備を整備したり、まずはそれを修繕することが大切なのではないかというご意見を頂いており、監査委員の方からも同様のご意見を頂いております。そういったことで、29 年度は長年懸念であった稲梓小学校への通学路をこの基金を活用し、整備をさせていただく予定となっております。

<委員(区長)>

いずれにしても、新築なのか、改築なのか、通学補助についても、やはり最終的には執行者、市長の判断になると思うのですが、いかがですか。

<事務局長>

市長の判断も含め、教育長及び教育委員の皆様のご考えなどを総合教育会議の中で協議、調整をしながら進めた上で、最終的には市の政策会議で政策決定していくということになると思われます。

<副 会 長>

前回の稲生沢中に稲梓中を統合する時には、校舎の改修費しか出すことしかできないという形、

通学については出せないという中での協議だったと思います。それと比較すると今検討している校舎については新築か改築か、通学費をどうするのかという現実的な話し合いをしているということは非常に良いことだと感じています。ただ子どもがこの再編をして良かったんだという何か明るい中で話しを進めていかないと駄目なのではないかと思っています。本当に現実的な話しをしますと、我々教員の世界では、この再編により大凡 20 人くらい教員が削減されることとなります。1 人当たり 600 万円から 700 万円としますと大体 1 億 4,000 万円くらいの教育にかかるお金が県から支出されなくなります。また、稲梓地区などでは中学校がなくなりますので、かなり反対の声が出てくると思われます。それでも、中学校再編をすることは良いことなんだということを明確に打ち出さないとシュンとなるというか仕方なくというか、後ろ向きな感じになってしまいます。子どもが中学校再編をすることによって、こんなに良くなるんだというものを打ち出していかないといけないと思います。稲生沢中と稲梓中の時のことを持ち出して悪いのですが、当時稲梓中の 3 年生は 15 人、また、男の子は 5 人しかいませんでした。そうすると体育の授業ができないんです。そういった現実を何とかしましょうよということで、保護者の方などへの理解はまだ良かったのですが、地域の方へのご理解が難しかった。今回も今後、そういった声が出てくると思われますが、こんなに良くなるんだというものを持っていないと駄目だと思います。伊豆市なども市長さんが先頭に立って、どんどん打ち出しているので、中学校再編がかなり進んでいます。通学費についても約 7,000 万円弱を毎年支出しているそうです。またバス停までの距離分も補助として出しているそうです。そんなことまでして、事業を展開しているそうです。立場的に発言すること自体申し訳ないのですが、そこまでした上で、ある程度のことは認めていかないとなかなか先に進まないのではないかとこの考えを私自身は感じています。

<会 長>

ありがとうございます。私たちも最初に、どういった経緯でこの再編の話になったのかと言いますとその根本にあるのは、子どもたちに素晴らしい環境のなかで学習をさせるためというところからスタートをしています。そして、話が段々煮詰まったときにぶつかるのが、今回のこの財政的な部分になります。これは避けて通れない問題でもありますが、全てのご意見を反映することは困難かもしれませんが、私たちは頂いたご意見をもとにこれからより良い方向に進めていきたいという強い気持ちがあります。特に建設手法につきましては、本日の委員のご意見からも最終的なものまで突き詰めていくとなかなか結論を出すことが困難であるという部分も含めて、報告書を取りまとめたいと思います。

<委員(区長)>

報告書案に新築や改築の事業費が算出されていますが、これは現在の金額で算出していますか。これから 33 年度までの間には金額が上がるのではないかと考えているのですがいかがですか。

<事務局>

算出根拠としましては 28 年度の人件費の単価を、材料費につきましても現在の単価等で算出していますが少し多めに想定しています。しかし、今後 4 年間の中に東京オリンピックなどもあり、人件費については東日本大震災以降、毎年右肩上がりの状況、材料費についても上がっている状況であり、実際どのような形となるのかはわかりませんが、上がることは否定できないと考えております。

<委員(区長)>

そうであるならば、33 年度以降に再編を行うというのではなく、早ければ早いほど費用等も掛からないので、もう少し前倒しをすることはできないのですか。33 年度以降だと示されている事業費

より恐らく多くなり、その分通学費へ費用が回らないと思います。また、11月に中学校視察を行った際に借地料の話も伺いましたが、その分の費用も削減できると思います。新庁舎の問題もあつたり、全体的に職人も少なくなつて、より多く費用が掛かってくるのではないかと感じています。

<会 長>

ありがとうございます。この再編年度の設定の一つには教職員の問題というものもあります。先ほどもご意見がありましたが、20人を一気に削減できず、段階的に削減していかなければならないという現実もあります。少し難しい言葉になりますが、欠員補充という形で講師の先生を配置することによって、少しずつ調整していくような対応をしていかなければなりません。

<事務局>

教職員のお話が出ましたが、県教委が具体的に統合する際の基準として、2校を1校にする場合は中1年、また3校を1校にする場合、4校を1校にする場合の基準がそれぞれあり、そのスパンというものは正直かなり長くなっているのですが、今回、平成33年度までにと示させていただいているものは、県が示しているものよりもかなり短くなっております。以前、松崎町で松崎小に1校化した際に、それぞれ小規模校だったのですが、正直、かなり教職員が溢れました。その内、かなりの方が下田方面に流れてきたという状況が生まれたという事実もあります。当然、それら配置についても計画的に行っております。また、教職員の問題だけでなく、当然、学習指導要領で定められた教育内容であったり、各種それぞれ細かい部分も含めての調整を統合準備委員会にて詰めていくことになるのですが、その協議の期間もある程度の期間が必要だということで、そういった基準が示されております。

<会 長>

そういった中でもスピード感というものは必要であると認識しております。早くより良い環境を整えなければならないという意識を持ちながら、教育委員会としても今後進めていきたいと考えております。

<委員(校長)>

お願いがあります。工事期間に在籍している下田中学校の生徒については、もの凄く大変な思いをされると思われれます。仮設校舎となるような環境になったとしても、その中でもより良い環境、細かな配慮がなされる形で進めていただきたいと強く思いますのでよろしくお願いします。

<会 長>

その他、ご意見などはいかがでしょう。

ないようであれば、ただ今、頂きましたご意見につきましては、報告書内に反映できる部分につきましては、その対応をさせていただき、定例教育委員会及び総合教育会議にて報告をさせていただきたいと思ひます。

この報告書の最終報告につきましては、定例教育委員会及び総合教育会議等を経た上で、各委員の皆様へ送付をさせていただき、この送付を持って最終報告とさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

別件にはなりますが、新聞報道等で下田市が過疎地の指定を受ける可能性が出てきたという情報もごひます。まだどうなるか未定ですが、仮に過疎地指定されるとなると国からかなり優遇された措置を受けることができるようになる部分もあるとのことひです。そのような形で状況が変化を続ける中で、私たちも子どもにとって一番良い環境を作ることを目指して、進めていきたいと思ひますので皆様もぜひご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

(2) その他

特になし。

4 閉 会

<会 長>

それでは、これを持ちまして、第3回下田市立中学校再編検討会議を終了させていただきます。委員の皆様方におかれましては、昨年の10月から長期間にわたり、会議に出席いただきまして、感謝申し上げます。本当にお疲れ様でした。